

SABO NEWS LETTER

第 156 号【発行日】令和 5（2023）年 4 月 28 日(金)【発行】(一社)全国治水砂防協会

目 次

1. 目 次 1
2. 国土交通省砂防部長よりご挨拶 2
3. (一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶 3
4. 国土交通省提供資料 4

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

一般社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

国土交通省砂防部長よりご挨拶

令和5年度がスタートしました。会員のみなさまにおかれましては、新たな組織体制の下、新年度業務を開始されたことと拝察申し上げます。砂防部もおよそ半数の職員が異動し、新たな体制で土砂災害の防止・軽減に取り組んでまいります。会員のみなさまの引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて令和5年度予算ですが、「防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策」としての令和4年度補正予算と合わせて「16か月予算」として、各地の砂防関係の施設整備や警戒避難体制の強化に向けた取り組みを進めていくこととなります。砂防関係予算の確保は会員のみなさまのご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。また今後の事業執行におきましても地元調整等何かとご協力をお願いすることもあろうかと思えます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

次に、関係者が連携して取り組んでいる「流域治水」ですが、上流域における砂防関係の取り組みのいくつかを紹介します。ハード対策については、例えば令和2年7月豪雨により土砂・洪水氾濫が発生した万江川（熊本県球磨郡山江村）では河川事業や治山事業とも連携した土砂・流木対策が、「いのち」と「暮らし」を守る砂防事業として集中的に進められています。また、林野庁と連携して進めている「流域流木対策」では、森林整備や治山ダムによる流木発生抑制と砂防堰堤や流木止め施設による流木捕捉を、計画策定段階から共同で取り組むことを目指しております。美瑛川（北海道上川郡美瑛町）のケースでは、砂防事業のみで実施した場合に比べ対象流量量が大幅に減じられました。効率的・経済的な流木対策に向け連携強化を進めていきます。

一方「いのち」を守るソフト対策に関連しては、市町村長さんの適宜適切な避難指示、そして住民の避難行動につなげるための取り組みの強化が求められます。さる1月14日、長野県岡谷市では「防災とボランティア週間」の関連行事として「赤牛先生の土砂災害に関する講座」が開設されました。区長さんはじめ自主防災組織や地域のみなさんが多数参加され、土砂災害から自らの命を守るための意識高揚につなげていただいたとのことです。長野県では土石流を「赤い牛」に見立てる伝承があるそうで、長野県砂防ボランティア協会のみなさんが「赤牛先生」として講座開設を担当されています。あらゆる関係者があらゆる取り組みに尽力する「流域治水」を、これからもしっかりと進めていきたいと考えています。

季節は春本番にさしかかり、すでに沖縄では「線状降水帯」の発生が確認されるなど降雨への備えが一層大切になる時期を迎えます。土砂災害への備えとしては、言うまでもなくハード・ソフト両面からの事前防災対策が重要です。ハード対策として保全効果の大きい砂防関係施設の着実な整備により、「いのち」と「暮らし」を守っていき、ソフト対策としても住民の皆さんに身の周りの土砂災害リスクを理解いただき、早めの避難行動につなげていただく取り組みを進めていく所存です。会員のみなさまの引き続きのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、会員のみなさまにとりまして令和5年度が充実した1年となりますことをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

(一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶

会員の皆様へ

東京では木々の新緑が美しい季節となりました。皆様におかれましては益々ご清栄にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、新年度早々の4月17日～21日に「2023 台日砂防共同研究会」が3年ぶりに開催されることとなり、台湾に行って参りました。今年、INTERPRAEVENT（国際防災学会）のシンポジウムが台湾の台中市で開催されるタイミングに合わせての研究会です。参加する調査団の構成員は、大学の先生、国土交通省職員、都道府県や市町村職員、そのほか一般財団の職員など総勢29名という大人数で、団長は私が務めることとなりました。シンポジウムには16カ国から200名を超える参加者があり、土砂災害を含む自然災害について多くの研究発表等がありました。現地視察では大学演習林内に土砂の山を盛り土で造り、実際の流水で崩壊させるといった天然ダム決壊のダイナミックな模擬実験などもあり、最先端の研究成果や技術を目の当たりにすることができ、大変良い刺激となりました。また、台湾のみならず世界中から参加される研究者、行政官、技術者とも交流を深めることができ、参加いただいた団員にとっても非常に勉強になったことと思います。対面での人的交流は本当に得がたいものであることを改めて認識いたしました。この台湾との技術交流は30年以上続いております。関心のある方は、当協会までお問い合わせくださいませ。

また、日本では5月25日に当協会の総会が砂防会館にて開催予定です。5月8日からは新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられますが、総会では引き続き感染防止対策を十分にとり、参加者の安全に十分配慮しながら開催いたします。特に今年の総会では国土交通省三上砂防部長の講演も予定いたしております。多くの皆様の参加をお待ちいたしております。

新年度を迎え、砂防協会職員一同、気持ちを新たに土砂災害防止のため当協会の活動に一層励んで参ります。引き続きご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

寒暖差の激しい折、皆様におかれましてはどうかご自愛くださいますように。

令和5年4月28日
一般社団法人 全国治水砂防協会
理事長 大野 宏之

土砂災害対策により地域社会の「いのち」と「暮らし」を守る

- 土砂災害は、住民の「いのち」を奪う可能性が高い災害であると同時に、土砂の堆積などにより復旧や復興に多くの時間と労力を要することから、地域の社会生活や経済活動など「暮らし」に与える影響が大きい災害である。
- 住民の「いのち」はもちろん、地域住民の「暮らし」も守る土砂災害対策を推進するとともに、地域主体の自助、共助を積極的に支援するなど、ハード・ソフト一体となった流域治水型砂防事業を展開し、社会全体の強靱化を図る。

ハード・ソフト一体となった流域治水の推進

1. 社会生活や経済活動を支える地域の基礎的なインフラの集中保全

- ・ 近年大きな被害をもたらしている土砂・洪水氾濫や流木災害などのあらゆる土砂災害リスクに対して、林野部局やまちづくり部局等との連携に基づいた砂防施設等の整備により、確実に「いのち」を守ることに加え、物流ネットワークや電力、水道、通信等のライフライン施設、市区町村役場等の公共施設など「暮らし」に直結する基礎的なインフラを集中的に保全

2. 地域の防災力を高める警戒避難体制の強化

- ・ 土砂災害リスク情報の高度化を図るとともに、より分かりやすく伝える工夫により地域住民とリスク情報を共有し、確実な「命を守る行動」を実現
- ・ 自助・共助を強力に支援し、住民を含む多様な主体の取組により地域全体の防災力を向上

3. 既存施設の老朽化対策を計画的に推進

- ・ 予防保全によるライフサイクルコストの縮減を図り、修繕・更新等が必要な施設への対策を加速化
- ・ 新技術の積極的活用による維持管理の効率化を図り、持続可能なインフラメンテナンスサイクルを実現

1

土砂・洪水氾濫対策の推進 (熊本県 万江川上流)

1. 概要

一級河川球磨川の支川であり、球磨郡山江村から人吉市街地へ流れる万江川は、令和2年7月豪雨により土砂・洪水氾濫が発生した。これにより、球磨郡山江村流域で人家被害(全壊2戸、一部損壊4戸)が生じた。本流域内には斜面崩壊や河道侵食により生産された土砂が未だ多く存在し、今後の出水で再び土砂・洪水氾濫を起こす可能性が極めて高い。

本計画は、流域内外の人家を保全するため、集中的な対策施設の整備するものである。

併せて、流出する土砂・流木により県道が寸断された場合の地域生活や経済に与える影響が大きいため、河川事業や治山事業等と連携し、集中的に安全性を向上させる。

- 2. 全体事業費・事業期間 57.6億円(国費 28.8億円)、令和4年度～令和13年度
- 3. 令和4年度事業費・実施内容 40百万円(国費 20百万円)、測量、調査設計を実施
- 4. 流域内保全対象 人家45戸、集会所3戸、変電所1基、村道2,780m、県道坂本人吉線780m

R2.7豪雨の土砂・洪水氾濫



位置図

万江川上流
中まえがわ
(熊本県山江村)

九州自動車道(高架) 五木村 山江村 至人吉市街地

砂防堰堤工 渓流保全工 堰堤工 深流保全工

砂防基準点付近の被害状況

山腹崩壊

建物の流失

首長・学識者を委員とし、各関係機関が参加する委員会を開催し、計画検討中

砂防堰堤工のイメージ

コンクリートスリット砂防堰堤

砂防 河川への土砂流入を抑制

河川 上下流一体となった河川整備

治山 土砂とともに流出する流木対策

土砂・洪水氾濫対策

2

びえいがわ
流域流木対策の推進（北海道美瑛川）

○土砂・洪水氾濫対策に加えて、流域全体の流木被害を防止・軽減するため、林野部局と連携し、流域流木対策を推進。

流域流木対策の必要性

1. 流木被害の増大

▶ 近年の気候変動による土砂・洪水氾濫の頻発化・激甚化に伴い、毎年のように大量の流木が発生による被害が発生。



近年の流木流出による被害事例

流域流木対策による効果



林野部局とともに流域・流木対策計画を策定することにより、**事業費の縮減**と、**事業期間の短縮**が図られ、**早期の安全確保**が可能となる。

赤牛先生の土砂災害に関する講座（長野県岡谷市）

- 長野県岡谷市では、土砂災害に対する市民の迅速かつ適確な避難行動につなげるため、「防災とボランティア週間」の関連行事として「赤牛先生の土砂災害に関する講座」を実施（令和5年1月14日）。
- 区長さんや自主防災組織に加え、地域の方々にも参加いただき、“地域の防災力・減災力の向上”と“住民の防災・減災意識の醸成”に向けた取組みを推進。

「赤牛先生の土砂災害に関する講座」の実施状況（令和5年1月14日 岡谷市）



【赤牛先生の概要（長野県）】

土砂災害・水害を「我が事として捉える防災意識」の醸成を目的に、長野県では砂防ボランティアの皆さんを”赤牛”先生※として、防災教育を実施する公民館等へ派遣している。

※赤牛先生・・・各地に語り継がれる「赤牛伝説」は水に関係する話が多く、その地域特有の災害への忠告であると、長野県立歴史館長 笹本正治氏が論文に多く発表しており、長野県では防災教育の講師を”赤牛先生”と呼ぶことにしている。



砂防ボランティアによる防災教育